

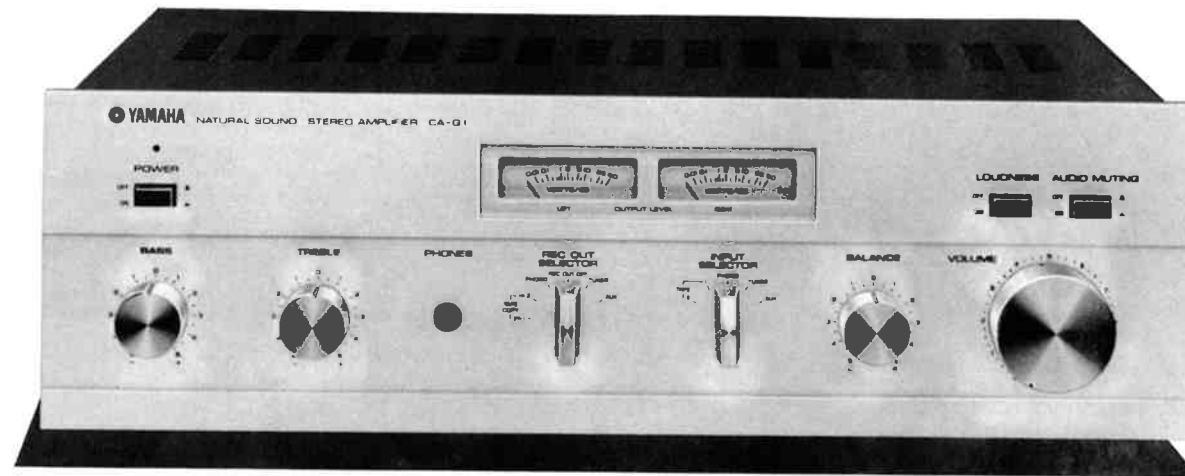


# YAMAHA

INTEGRATED STEREO Amplifier

# CA-G1

取扱説明書



# 特 長

## ■ごあいさつ

JOYFUL MUSIC WITH NICE ATMOSPHERE

良い音楽には良い雰囲気が必要です。

豊かな音楽の再現とヤマハならではの優美なデザインのステレオ・プリメインアンプCA-G1をお買い求めいただきましてまことにありがとうございました。ヤマハの持つエレクトロニクス技術の粋を集めて完成されたCA-G1は、35W+35Wの純コンプリメンタリーSEPP、OCL方式のメインアンプ部や、ローノイズイコライザー回路等により音楽性豊かな透明度の高い音質を得ております。

出力、歪率、S/N比、チャンネルセパレーションなど十分な特性と豊富な付属回路を備えたCA-G1の性能をフルに発揮させると同時に長年故障なくお使いいただくため、この取扱説明書をご使用前にぜひお読みくださいますようお願いいたします。

## ■目次

特長	2
ご使用になる前に/次のことにご注意ください	3
接続図	4
各部の名称と機能	5
リアパネル	5
フロントパネル	6
接続と使い方	8
スピーカーシステムの接続と使い方	8
レコードプレーヤーの接続と使い方	8

## ■特長

- 35W+35W(20Hz~20KHz、T.H.D 0.05%)の実効出力、低歪率の入力差動カレントミラー、純コンプリメンタリーSEPP、OCL回路のメインアンプにより透明度の高い優れた音質を追求しております。
- REC OUT SELECTORスイッチの採用で、スピーカーを鳴らしているプログラムとは無関係に別のプログラムの録音ができるというダブルアクションが可能です。
- 高いS/N比(85dB/IHF-A、3mV感度)を持った3石2段構成のローノイズイコライザーアンプは、レコード演奏時にノイズを感じさせません。
- オーバーシュートを押えた対数圧縮型の出力レベルメーターは、0.01W~50Wの出力をワイドに表示、暗い所でも読み取れる明るい照明ランプ付きです。
- 中点DC検出リレー方式の保護回路は万一の事故にもスピーカー回路を切り離して保護しております。
- イコライザーやトーンコントロール、そしてメインアンプの初段に定電圧電源回路を設け、メインには6,800 $\mu$ F $\times$ 2の大容量のケミコンを採用しております。このため安定した電源を供給し、低音域を力強く、またのびのびと再現しております。
- ラウドネス、ミュートイング、トーンコントロール、バランスコントロール、ヘッドホーン端子などの豊富な付属回路を備えております。
- 良い音楽と良い雰囲気にマッチしたヤマハならではの優美なパネルデザインと、人間工学に基づいた操作性を備えております。

チューナーの接続と使い方	8
テープデッキの接続と使い方	9
AUXへの接続と使い方	10
ヘッドホーンの接続と使い方	10
特性表	10
規格	12
ブロックダイヤグラム	13
故障と思われるときには	14
サービスのご依頼について	15

# ご使用になる前に／次のことにご注意ください



## 設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、音質が悪化したり故障などの原因となりますのでご注意ください。

- 窓際など直射日光の当る場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所
- 温度の特に低い場所
- 湿気やホコリの多い場所
- 振動の多い場所



## 水に濡れたら

窓際などに設置して、万一雨が降ったり、花瓶などの水をセットにこぼした時はすぐに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。



## キャビネットを開けない

キャビネットや底板を開けて内部に手などを入れますと故障や感電事故を起こすことがあります。何か異物が入ったときには、すぐ電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。



## セット上面の通風孔をふさがない

セット上面の通風孔の上にレコードなどを置かないでください。内部の温度が上昇し、発熱し故障の原因になります。



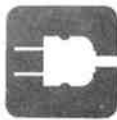
## 無理な力を加えない

スイッチやツマミ類に無理な力を加えたり、スイッチ類を途中で止めたりすることは避けてください。



## 予備電源コンセント

背面パネルのACコンセントの容量は、SWITCHEDが100W(TOTAL)、UNSWITCHEDが100Wとなっております。接続する機器の消費電力を確かめて容量以上の消費電力を持った機器は絶対に接続しないでください。



## 電源プラグも大切

コードの断線やショートを防ぐため、電源プラグをコンセントから抜くときは、コードを引っばらないで必ずプラグを持って抜いてください。旅行などで長時間ご使用にならないときは、電源コードのプラグをコンセントからはずしてください。  
※ 本機は国内仕様です。必ずAC100Vの電源コンセントにプラグを差し込んでお使いください。100V以外(例えば200V)の電源コンセントには絶対に接続しないでください。



## セットの移動

セットを移動する場合には、必ず電源プラグを抜き他機器などの接続コードを取りはずしてから動かしてください。



## セットのお手入れには

セットをベンジンやシンナー系の液体で拭いたり、近くでエアゾールタイプの殺虫剤を散布したりすることは避けてください。  
お手入れには、必ず柔らかい布で乾拭きするようにしてください。



## 保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをおこなってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、充分ご注意くださいようお願いいたします。



## もう一度調べてください

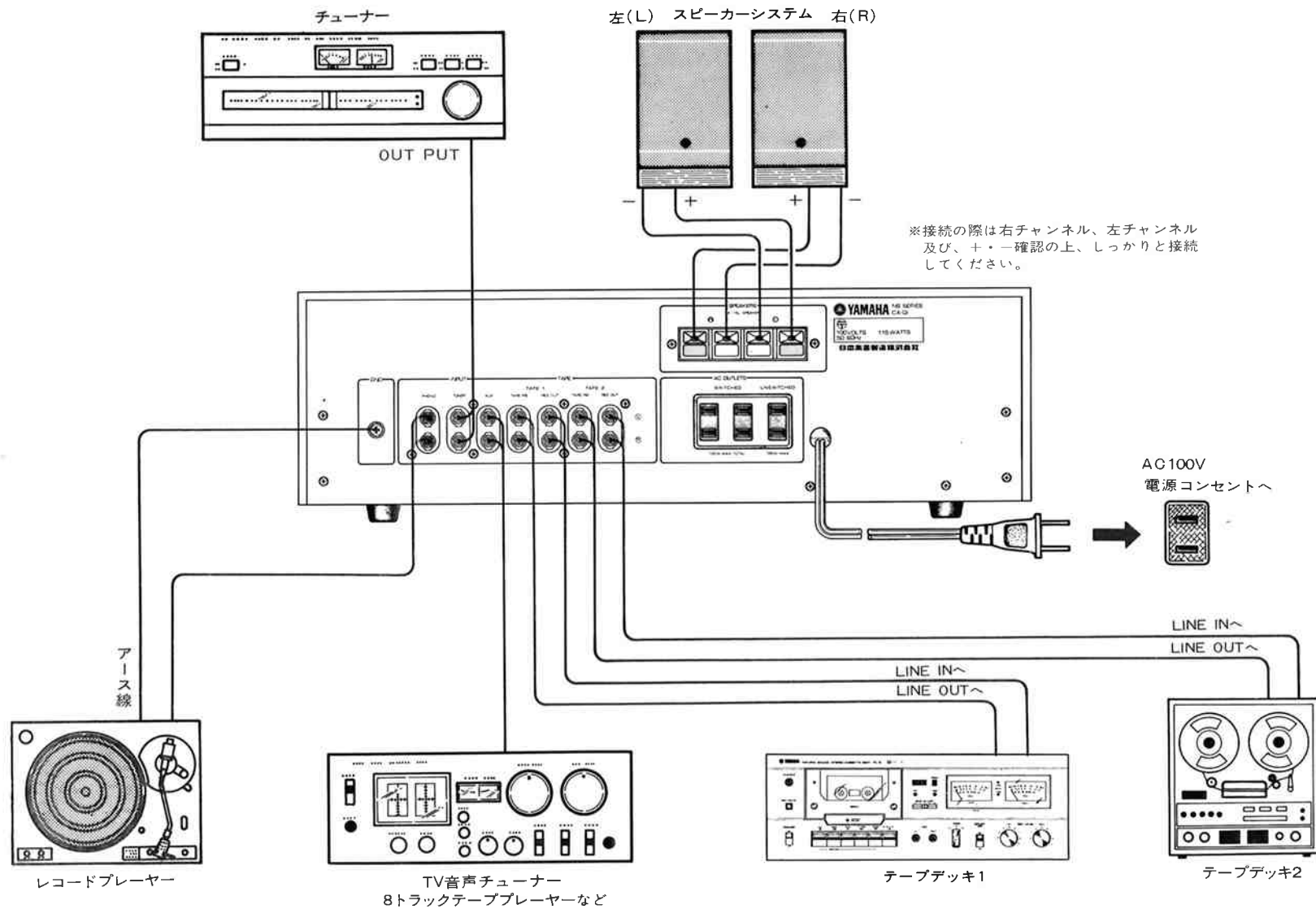
故障かな?と思ったら、まず14ページのトラブルチャートを見てください。意外なところで操作を誤っていることがあります。



## 保管してください

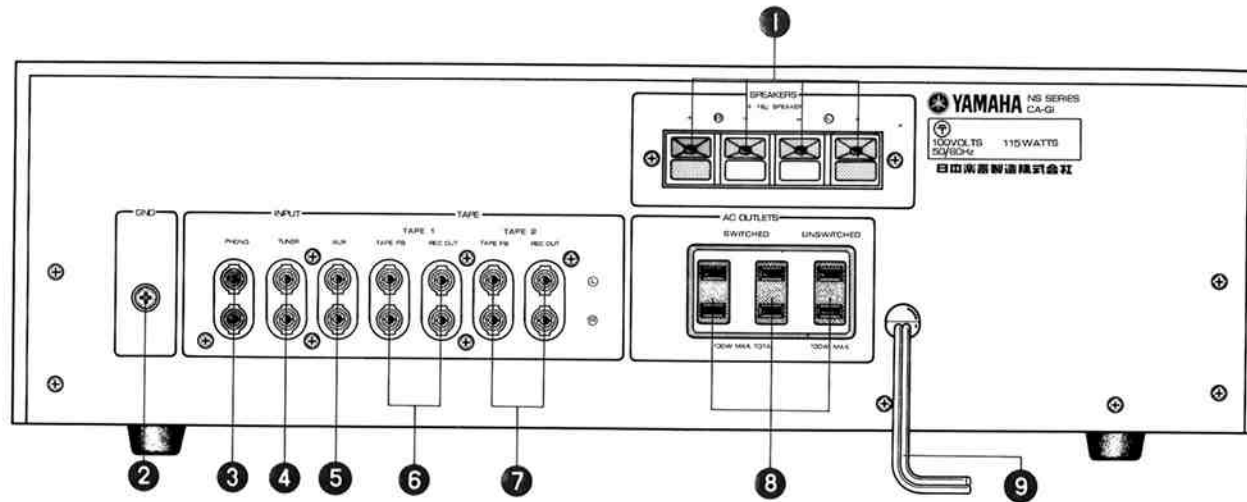
この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

# 接続図



# 各部の名称と機能

## リアパネル



### ① SPEAKERS(スピーカー出力端子)

スピーカーシステムをこの端子に接続します。

※接続方法は⇒P 8 参照

### ② GND(アース端子)

レコードプレーヤーなどのオーディオ機器からのアース線を接続する端子です。

※接続方法は⇒P 8 参照

### ③ PHONO(フォノ入力端子)

レコードプレーヤーの出力コードを接続します。

※接続方法は⇒P 8 参照

### ④ TUNER(チューナー入力端子)

AM/FMチューナーの出力コードを接続します。

※接続方法は⇒P 8 参照

### ⑤ AUX(補助入力端子)

8トラックテープデッキやTV音声チューナーなどの出力コードを接続します。

※接続方法は⇒P10参照

### ⑥ TAPE 1 (TAPE 1 録音再生端子)

TAPE PB端子にテープデッキ1のLINE OUTの出力コードを、REC OUT端子にLINE INのコードを接続します。

※接続方法は⇒P 9 参照

### ⑦ TAPE 2 (TAPE 2 録音再生端子)

TAPE PB端子にテープデッキ2のLINE OUTの出力コードを、REC OUT端子にLINE INのコードを接続します。

### ⑧ AC OUTLETS(予備電源コンセント)

レコードプレーヤーやチューナーなどの他のオーディオ機器のACプラグを接続します。

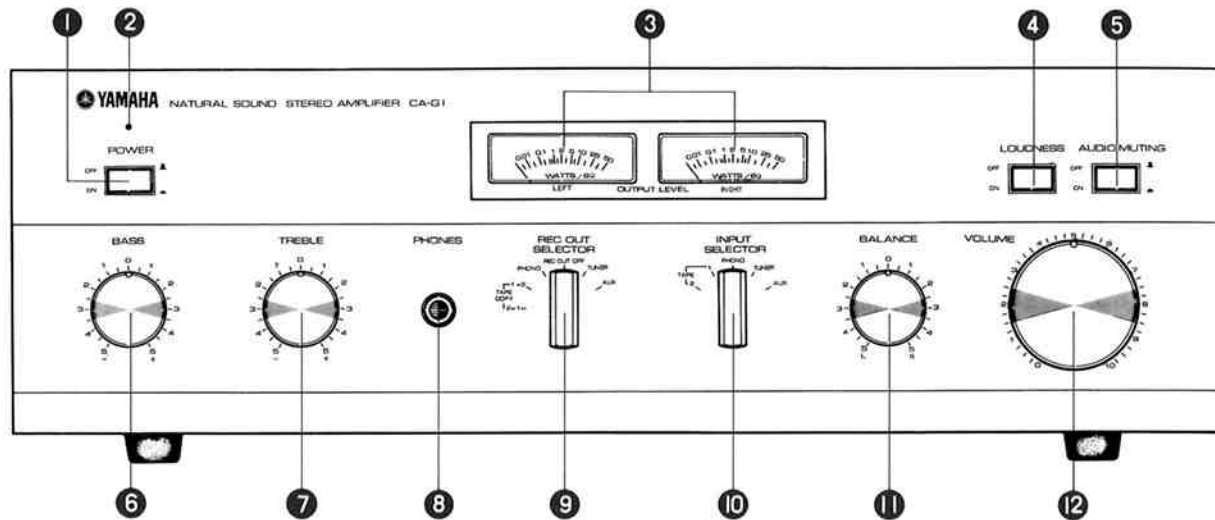
SWITCHEDコンセントは、本機の電源スイッチと連動し、UN SWITCHEDコンセントは、非連動となっています。

※SWITCHED, UNSWITCHED いずれにも100W以上の消費電力を持った機器を接続しないでください。

### ⑨ 電源コード

コードのプラグは必ずAC100V, 50/60Hzの電源コンセントに差し込んでお使いください。

## フロントパネル



## ①POWER(電源スイッチ)

このボタンを押してON(■)にすると電源が入り、さらにもう一度押すとOFF(■)となって電源が切れます。電源を入れて数秒はスピーカーから音が出ません。これは電源を入れたときのポップノイズを取り除くためとスピーカー保護回路が働いているからです。

※電源をONにするときは、不用意に大きな音が出ないように必ずVOLUMEつまみを最小の位置(左一杯:0)に回しておくようにしてください。

## ②電源表示灯

電源スイッチをONにしますとこのインジケーターが赤く点燈してセットが動作していることを表示します。

## ③出力レベルメーター

電源スイッチをONにするとメーターの照明ランプが点燈します。左側(LLEFT)がLチャンネル用、右側(RIGHT)がRチャンネル用です。8Ωのスピーカーシステムを接続した場合、0.01Wから50Wまでの出力を読むことができます。

※8Ω以外のスピーカーを接続しますと指示値は異なります。

## ④LOUDNESS(ラウドネススイッチ)

小音量でお聞きになる場合は、このボタンを押してON(■)にすると低音域と高音域が強調されて豊かに聞こえます。

大音量でお聞きになる場合はOFF(■)にしてお聞きください。

※人間の聴覚には音量が小さくなるにつれて低音と高音が聞こえにくくなるという特性があり、ラウドネススイッチはこれを補正するためのスイッチです。

### ⑤ AUDIO MUTING(ミュートスイッチ)

このボタンをON(■)にするとVOLUMEツマミを回さなくても音量を20dB(1/10)下げることができます。

※演奏中に電話がかかってきたときなど一時的に音量を小さくする場合に便利です。

### ⑥ BASS(低音調整ツマミ)

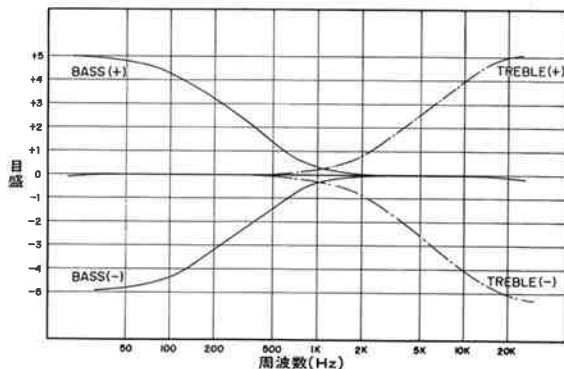
低音域の特性を調整するツマミで、0のポジションがフラットな状態で右に回すほど低音が強調され、左に回すほど減衰されます。

※下図の特性表を参考にしてください。

### ⑦ TREBLE(高音調整ツマミ)

高音域の特性を調整するツマミで、0のポジションがフラットな状態で、右に回すほど高音が強調され、左に回すほど減衰されます。

※下図の特性表を参考にしてください。



### ⑧ PHONES(ヘッドホン端子)

ヘッドホンのプラグをこの端子に差し込みますと、スピーカーシステムの音を消して、ヘッドホンで聴くことができます。

### ⑨ REC OUT SELECTOR(録音出力切換スイッチ)

接続されているテープデッキに録音用の信号を送るスイッチです。

INPUT SELECTOR(入力切換スイッチ)に関係なく接続されているプログラムソースを録音することができます。

※⇒使用方法はP10参照

●REC OUT OFFのポジションでは録音できません。

### ⑩ INPUT SELECTOR(入力切換スイッチ)

接続されているプログラムソースを選択するスイッチです。

下表のプログラムソースに合わせてスイッチを切換えてください。

INPUT SELECTOR スイッチのポジション	プログラムソース
PHONO	レコードの演奏
TUNER	FM/AMチューナーによる放送受信
AUX	AUX端子に接続された機器の演奏
TAPE 1	TAPE 1端子に接続されたテープデッキの再生
TAPE 2	TAPE 2端子に接続されたテープデッキの再生

### ⑪ BALANCE(バランスコントロールツマミ)

スピーカーシステムの配置や家具などの影響によって左右スピーカーの音の大きさが異なる場合があります。このようなときこのツマミを回して左右の音量バランスを調整してください。

右側の音量が小さい場合にはセンターより右(R側)に回し、左側の音量が小さい場合には左(L側)に回します。

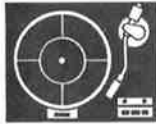
### ⑫ VOLUME(音量調整ツマミ)

全体の音量を調整するツマミで右に回すほど音量が大きくなります。

※電源スイッチをON、OFFするときは必ずこのツマミを0(ゼロ)に絞り切っておいてください。



## 接続と使い方

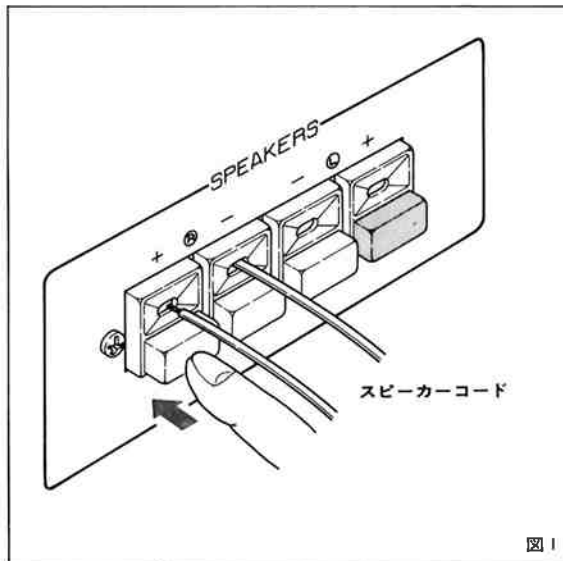


### スピーカーシステムの接続と使い方

アンプリアパネルのスピーカー出力端子(SPEAKERS)にスピーカーシステムを接続してください。

**接続方法**(⇒P4の接続図を参考にしてください)

- ①リアパネルのSPEAKERS端子へ、向かって左側のスピーカーシステムのコードをL端子、右側のスピーカーシステムのコードをR端子に、極性(+、-)を確認して接続してください。まちがえて接続すると低音のそこなわれた不自然な再生音になってしまいますから注意してください。
- ②図1のように端子穴の下ボタンを押し、スピーカーコードの芯線部分をさし込み、ボタンを離しますとコードはしっかりロックされます。接続が不完全ですとスピーカーから音が出ない場合がありますので、しっかりロックしてください。



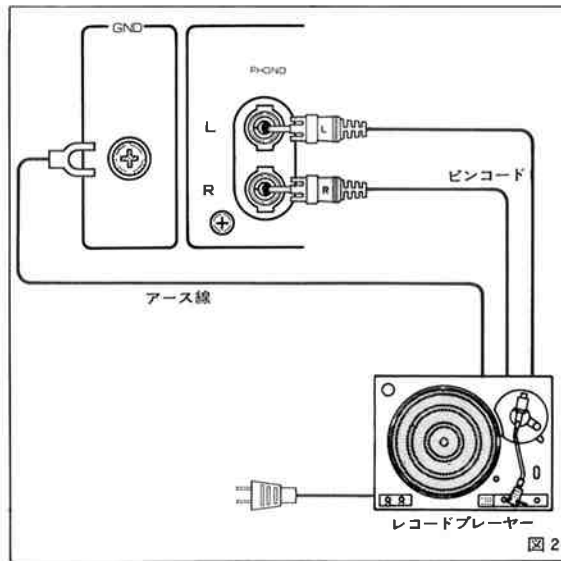
### レコードプレーヤーの接続と使い方

プレーヤー出力コードの先端のピンプラグをアンプのリアパネルPHONO入力端子にL、Rを確認して接続してください。出力コードと共にアース線も出ている場合は、リアパネルのGND端子に接続してください。(図2)

※場合によってはアース線を接続しない方がハムに対してよい結果が得られることがあります。

レコードを演奏するときは、フロントパネルのINPUT SELECTORスイッチをPHONOに切換えればレコードを演奏することができます。プレーヤーのカートリッジは、ムービングマグネット型(MM型)をご使用ください。

低出力のムービングコイル型(MC型)カートリッジをご使用になる場合は、専用のマッチングトランスまたはヘッドアンプを併用してください。

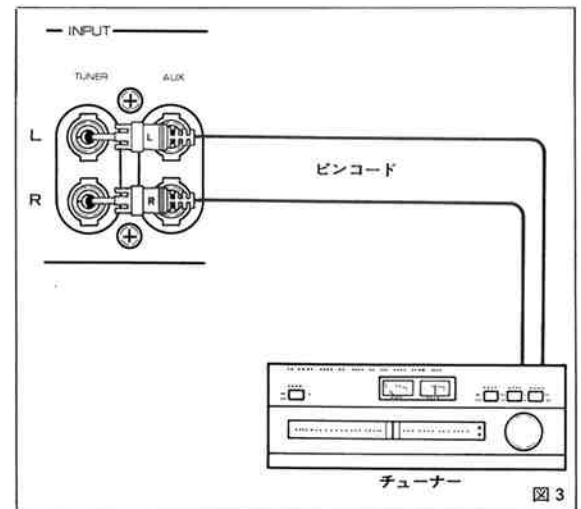


### チューナーの接続と使い方

チューナーの出力端子とアンプリアパネルのTUNER端子をL、Rを確認してピンコードで接続します。

(図3)

チューナーでFM放送あるいはAM放送を聴く場合には、INPUT SELECTORスイッチをTUNERのポジションにセットし、チューナーを操作して希望放送局の周波数に合わせてください。



本機を動作させるには、必ず各機器の接続が正しくおこなわれているかを確認の上、アンプのVOLUME(音量調整つまみ)を左一杯に回して音量を小さくしてから電源プラグをACコンセントに差し込み、電源をONにしてください。

※電源スイッチをONにしたあと、アンプのボリュームコントロールは除々に大きくするようにしてください。





## テープデッキの接続と使い方

本機にはテープの録音、再生回路が2系統あります。また、TAPE1よりTAPE2、TAPE2よりTAPE1へのダビング(複写)が可能です。

### ■接続方法

アンプリアパネルのTAPE 1のREC OUT端子とテープデッキ録音入力端子(LINE IN)をL、Rを確認してピンコードで接続し、アンプのTAPE 1のPB端子とテープデッキの再生出力端子(LINE OUT)を同様にピンコードで接続してください。

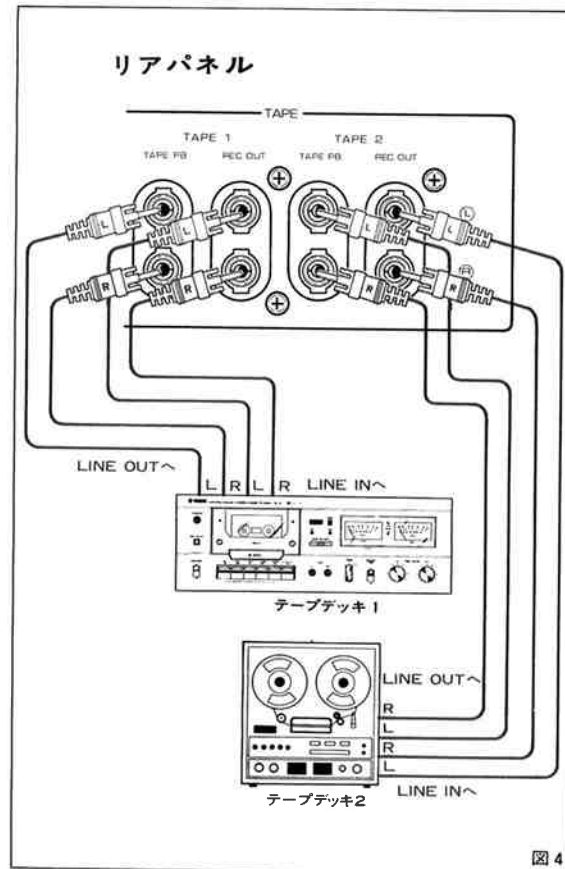
TAPE 2のREC OUTおよびPB端子も同様にしてもう一台のテープデッキを接続することができます。(図4)

### ■テープの再生

IN PUT SELECTORスイッチをTAPE1あるいはTAPE2のポジションにセットし、そのポジションに接続されたテープデッキを再生操作すれば、テープに録音されたプログラムソースが再生されます。

### ■テープへの録音

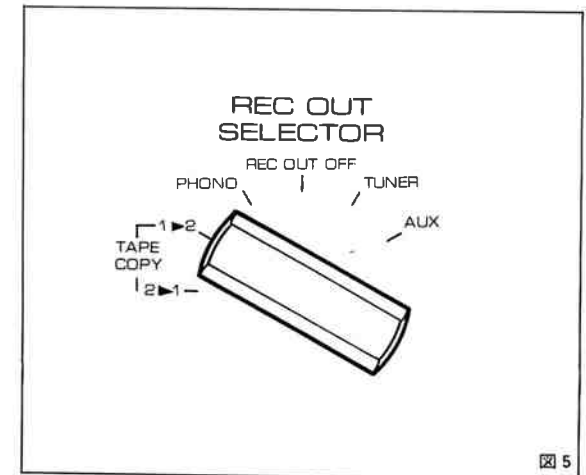
REC OUT SELECTORスイッチを録音したいプログラムソースのポジションにし、REC OUT端子に接続してあるテープデッキを録音操作すれば、ご希望のプログラムソースをテープに録音することができます。



### ■テープのダビング(複写)

本機ではTAPE 1端子に接続してあるテープデッキ1からTAPE 2端子に接続してあるテープデッキ2へのダビングがおこなえます。この場合、REC OUT SELECTORスイッチをTAPE COPY1▶2のポジションにセットし(図5)テープデッキ1を再生操作、テープデッキ2を録音操作にします。

※TAPE 2からTAPE 1へのダビングも同様にしてREC OUT SELECTORスイッチをTAPE COPY 2▶1のポジションにセットします。





### ■録音しながら他のプログラムを再生する場合

REC OUT端子に出てくるプログラムソースは、INPUT SELECTOR スイッチのプログラムと関係なく切換えて録音することができます。レコードをスピーカーから聴きながらREC OUT SELECTOR スイッチをTUNERにしてFM放送をテープデッキに録音する(図6)というダブルアクションやテープのダビングなどが可能です。

#### 主な作動例

INPUT SELECTOR	REC OUT SELECTOR	スピーカー
PHONO	TUNER	レコードをスピーカーで聞きながらFMまたはAM放送が録音できます。
TUNER	TUNER	FMまたはAM放送をスピーカーで聞きながら同時に録音できます。
PHONO	PHONO	レコードをスピーカーで聞きながら同時に録音できます。
TUNER	PHONO	FMまたはAM放送をスピーカーで聞きながらレコードを録音します。

他にREC OUT SELECTORと、INPUT SELECTOR スイッチの切換動作により数多くのプログラムソースを楽しむことができます。

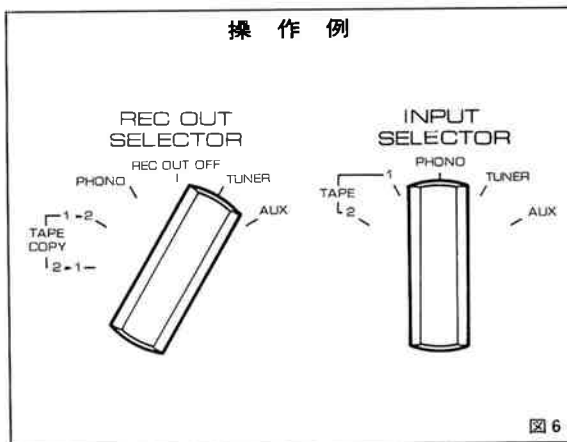


図6

### AUXへの接続と使い方

AUX端子は補助入力用の端子として使用できます。接続する機器の出力端子とアンプリアパネルのAUX端子をL、Rを確認してピンコードで接続します。(図7) この端子は、テープデッキの他に2台のチューナーを使つての比較試聴やテレビの音声チューナーをはじめ、8トラックテーププレーヤーなどが接続できます。

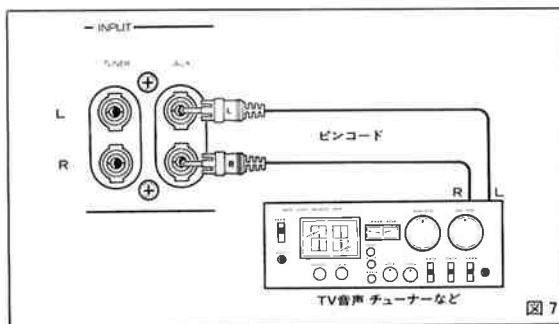


図7

### ヘッドホンの接続と使い方

ヘッドホンのプラグをフロントパネルのヘッドホン端子(PHONES)に差し込んでください。スピーカーからの音が消えてヘッドホンだけで聴くことができます。ヘッドホンはL、Rを確認して正しくお使いください。(図8)

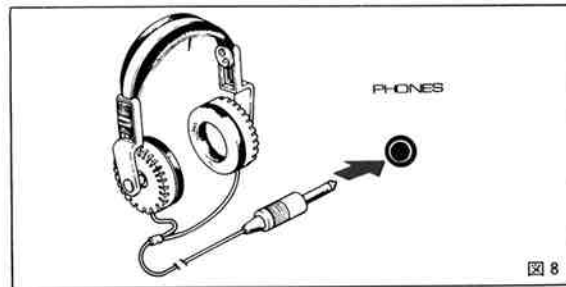


図8

## 特性表

### 歪率特性について

微弱な信号から大きな信号に増幅するオーディオアンプにはいろいろな電氣的な歪成分が発生して再生音の忠実度を低下させることとなりますが、これを少なくすることがポイントとなります。

- 高調波歪は、基本波に対する全高調波の比率を%で示すもので再生音に有害な雑音歪成分の判定にもなります。
- 混変調歪は、複数の周波数(60Hz:7KHz=4:1)を同時に入れた場合に交調作用によって周波数の和や差、高調波などがまざり合った周波数成分となって歪の原因となるものです。

出力/全高調波歪率特性は、一般に周波数が高くなるほど(高音域ほど)悪くなる傾向がありますが、本機では、実測値が20Hz, 1KHz, 20KHz 共規格値の0.01%を下回っております。

※出力が低いところで歪率のカーブが上昇しているのは、アンプの残留雑音成分による影響で、これは音質を汚すものとはなりません。

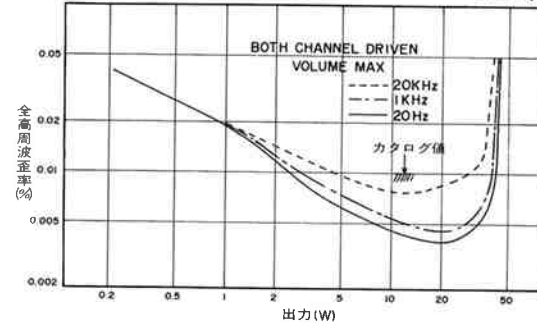
周波数/全高調波歪率特性は出力を一定(17.5W)にして、各周波数に対する歪を測定したもので20KHzまで0.01%以下に入っております。

N. D. C. Rは、アンプが実際に使用される状態を想定してPHONO入力からスピーカー出力端子までのオーバーオール特性を、ボリュームを最大から20dB下げ、1KHzの信号を入れたときに測定したものです。実測値では、ボリュームを絞り込んで実際に使用する状態での歪やノイズ成分が0.1%を下回って除去されていることがわかります。

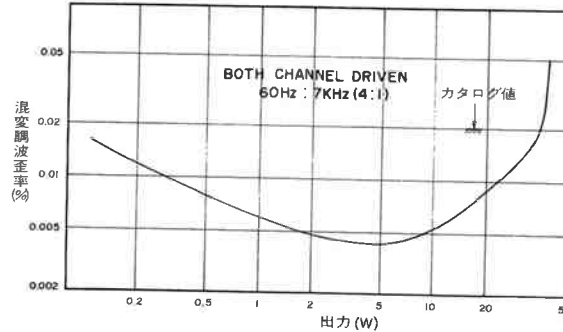
RIAA偏差特性は、レコードに録音されているRIAAカーブをアンプのイコライザー部で補正して、全周波数帯域にわたって平坦な特性となっているかを判定するものです。  
この偏差は、回路に使用するパーツの精度で決まるもので、本機ではほとんどフラットなデータを示しています。

入力電圧／全高調波歪率特性は、イコライザーアンプに20Hz、1KHz、20KHzの三つの周波数を入れて入力電圧と歪率との関係を示したもので、各周波数のカーブが離れているのはレコードに録音されているRIAAカーブが逆の特性を示しているからです。  
1KHzの信号を入れて最も出力の大きなカートリッジで、最もダイナミックレンジの大きなレコードを再生した場合でもカートリッジの出力は最大130mVくらいですから本機のPHONO許容入力は0.05%歪のとき135mVとなっており、十分な許容入力を持っていることがわかります。

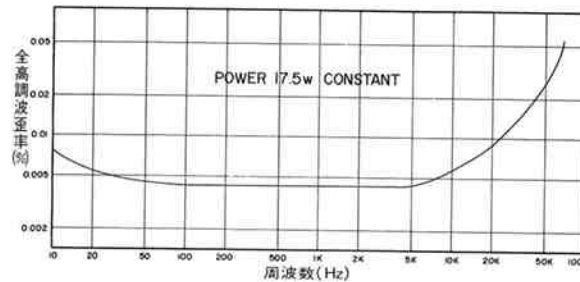
出力／全高調波歪率特性 (TUNER→SP OUT)



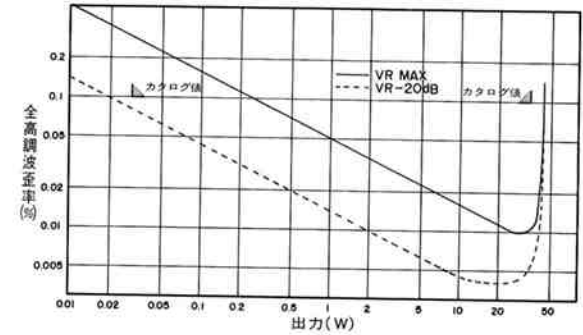
出力／混変調波歪率特性 (TUNER→SP OUT)



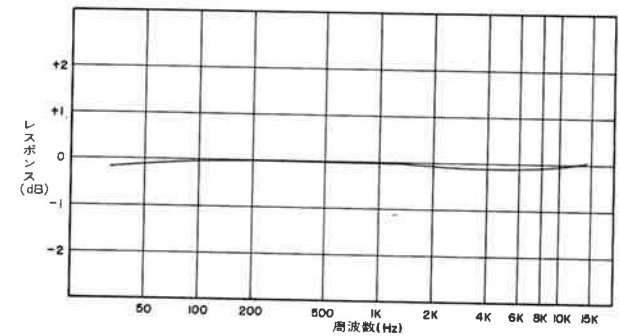
周波数／全高調波歪率特性 (TUNER→SP OUT)



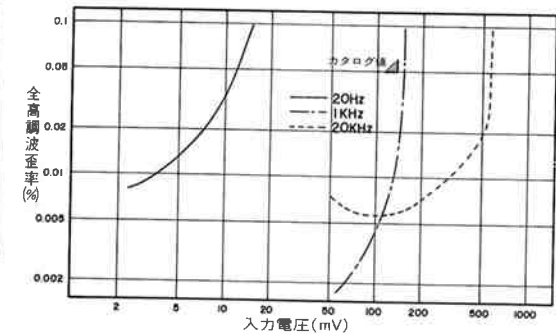
N.D.C.R (PHONO→SP OUT)



RIAA偏差特性 (PHONO→REC OUT)



入力電圧／全高調波歪率特性 (PHONO→REC OUT)



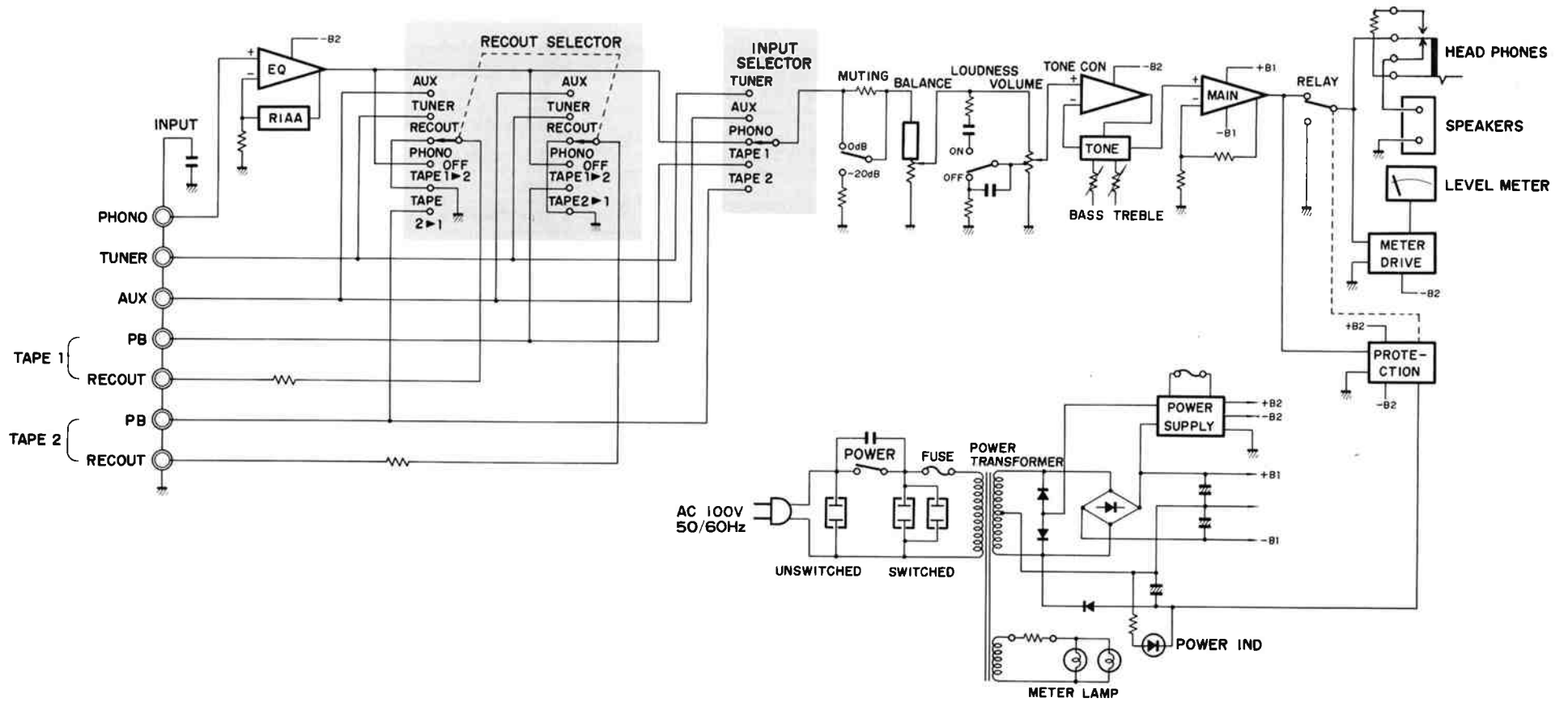
## 規格

定格帯域出力	8Ω, 20Hz~20KHz, T.H.D 0.05%	35W+35W
	4Ω, 20Hz~20KHz, T.H.D 0.1%	40W+40W
定格出力	8Ω, 1KHz, T.H.D 0.05%	40W+40W
	4Ω, 1KHz, T.H.D 0.1%	45W+45W
出力帯域幅	8Ω, 17.5W T.H.D 0.05%	10Hz~50KHz
入力感度/入力インピーダンス	PHONO	3.0mV/47KΩ
	TUNER	150mV/47KΩ
	AUX	150mV/47KΩ
	TAPE1, TAPE2, PB	150mV/47KΩ
PHONO最大許容入力(0.05%)		135mV以上
出力電圧/出力インピーダンス	REC OUT	150mV/600Ω
再生周波数帯域	RIAA偏差 PHONO→REC OUT	
	30Hz~15KHz	0±0.3dB
	TUNER AUX, TAPE1,2 P.B→SPOUT	0±0.5dB
全高調波歪率	PHONO→RECOUT, 1V出力, 20Hz~20KHz	0.01%以下
	TUNER→SPOUT 17.5W出力, 20Hz~20KHz	0.01%以下
混変調歪率	TUNER, AUX, TAPE1,2→SPOUT	0.02%以下
	8Ω, 17.5W, 60Hz : 7KHz = 4 : 1	
N.D.C.R	PHONO→SPOUT, 1KHz, T.H.D, 0.1%	30mW~35W
	VOL-20dB, 帯域20Hz~20KHz	
SN比	PHONO入力ショート, IHF・A	85dB
	TUNER, AUX, TAPE1,2入力ショート IHF・A	100dB
残留ノイズレベル	IHF・A	160μV
トーンコントロール	BASS ターンオーバー	500Hz
	最大可変幅	±10dB(at 20Hz)

	TREBLE ターンオーバー	3KHz
	最大可変幅	±10dB(at 20KHz)
フィルター	サブソニックフィルター(EQ内蔵)	12Hz、-12dB/oct
チャンネルセパレーション	PHONO→SPOUT, 1KHz	65dB以上
	TUNER→SPOUT, 1KHz	65dB以上
LOUDネス	VOL., -30dB, 50Hz	+7dB
	VOL., -30dB, 10KHz	+5dB
ミューティング		-20dB
スピーカー負荷インピーダンス		4~16Ω
ヘッドホーン定格出力	20Hz~20KHz, 8Ω	43mW
使用半導体	トランジスター	39
	ダイオード	15
	ツェナーダイオード	2
	LED	1
ACアウトレット	SWITCHED X2	TOTAL 100W
	UN SWITCHED X1	100W
定格電源電圧		AC 100V
定格電源周波数		50/60Hz
定格消費電力		115W
外形寸法	W×H×D	435×139×333mm
重量		7.8kg

※規格および外観は改良のため予告なく変更されることがございます。

# ブロックダイアグラム



## 故障と思われるときには

症 状	原 因	処 置
電源スイッチを ON にしても電源が入らない	電源コードが電灯線コンセントにしっかり差し込まれていない	電源コンセントにしっかり差し込みなおしてください
	電源ヒューズが切れている	日本楽器各支店のオーディオ技術係に相談してください
INPUT SELECTOR スイッチを切換えても再生音が全く出ない	インプットセレクターが確実にセットされていない	正しい位置に確実にセットしてください
	スピーカーの接続が不完全	確実にスピーカーを接続してください
	入力端子のピンプラグが確実に差し込まれていない	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください
	スピーカーコードの接続が不完全	スピーカーコードの接続を確認してください
左右スピーカーあるいは左右いずれかのスピーカーから音が出ない	スピーカーコードの接続が不完全	スピーカーコードの接続を確認してください
	BALANCE ツマミがLかRのどちらかにずれている	BALANCE ツマミを正しく調整してください
再生中に突然音が出なくなった	スピーカー出力端子に±2V以上の直流電位が発生したため、スピーカー保護回路が動作している	電位が0Vになり次第、リレーが働き回路につながります 電源スイッチをOFFにし、しばらくしてからONにします
	電源ヒューズの切断	日本楽器各支店のオーディオ技術係に相談してください
	スピーカーの位相(+)、(-)が合っていない	位相(+)、(-)を合わせて接続しなおしてください▶P8参照
VOLUME をあげても音量が余り大きくならない	AUDIO MUTING スイッチがONになっている	AUDIO MUTING スイッチをOFFにして再調整してください
レコード演奏のとき、「ブーン」というハム音が入る	ピンプラグの接続不良	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください
	プレーヤーのアース線をGND端子に接続していない	アース線をリアパネルGND端子に接続してください
業務無線・アマチュア無線等の通信内容、放送が再生音に混入する	近所に送信所・業務無線局・アマチュア無線局等がある	日本楽器各支店のオーディオ技術係に相談してください
		電波を発射している所に相談してください
レコード再生時、VOLUME をあげると「ワーン」という音が出る	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定だったりして「ハウリング」を起こしている	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの各々の設置場所を変えてください

# サービスのご依頼について

●サービスのご依頼は、お買上げ店、または日本楽器各支店オーディオ技術係へお願いいたします。

■本機の保証は、保証書によりご購入から満1ヵ年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。

■保証期間の1ヵ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。なお、補修用性能部品の保有期間は8年となっております。

## ■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”とお思いになる点がございましたら、まず本文中“故障と思われるときには…”の項をお読みになってください。意外と故障ではない場合があるものです。(ご依頼をお受けしてお伺いしますと、故障でない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただきますのでご注意ください。)

## ■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(ステレオの具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます。)

## ■日本楽器各支店への持ち込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご自分でお買上げ店、又は最寄りの日本楽器各支店へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右のオーディオ技術係又は裏表紙の日本楽器各支店の所在地と電話番号をご参照ください。)

## ■ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。(あらかじめ補修部品などを手配し、早く、確実にサービスにお伺いできます。)

## ■サービスのお約束

昼間ご不在がちなお客さまや留守がちのお客さまは、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂きたく存じます。万一、お約束した日時にご都合が悪い時には、できるだけ早くご連絡くださるようお願いいたします。(出張料の二重負担が防止でき、お徳です。)

## ■各支店住所 (オーディオ技術係)

東京支店・〒101	東京都千代田区外神田3-10-12 TEL (03)255-2241
横浜支店・〒231	横浜市中区本町6-61-1 TEL (045)212-3111
千葉支店・〒280	千葉市千葉港2-1(千葉コミュニティセンター内) TEL (0472)47-6611
関東支店・〒370	高崎市歌川町8番地(高崎センター内) TEL (0273)27-3366
大阪支店・〒564	吹田市新芦屋下1-16 TEL (06)877-5151
神戸支店・〒651	神戸市葺合区浜辺通り6-1-36 TEL (078)232-1111
四国支店・〒760	高松市西宝町2丁目6-44 TEL (0878)33-2233
名古屋支店・〒460	名古屋市中区錦1-18-28 TEL (052)201-5141
北陸支店・〒921	金沢市泉本町7-7 TEL (0762)43-6111
九州支店・〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092)472-2151
北海道支店・〒064	札幌市中央区南十条西1丁目(ヤマハセンター内) TEL (011)512-6111
仙台支店・〒983	仙台市原町南目薬師堂北2-1 TEL (0222)95-6111
広島支店・〒731-01	広島市祇園町西原862 TEL (08287)4-3787
浜松支店・〒430	浜松市幸3丁目5号 TEL (0534)74-0311

## 日本楽器製造株式会社

- 本社・工場 〒430・浜松市中沢町10-1  
TEL・0534(65)1111
- 東京支店 〒104・東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内  
TEL・03(572)3111
- 銀座店 〒104・東京都中央区銀座7-9-14  
TEL・03(572)3131
- 渋谷店 〒150・東京都渋谷区道玄坂2-10-7  
TEL・03(463)4221
- 池袋店 〒171・東京都豊島区南池袋1-24-2  
TEL・03(981)5271
- 横浜支店 〒231・横浜市中区本町6-61-1  
TEL・045(212)3111
- 千葉支店 〒280・千葉市千葉港2-1/千葉中央コミュニティセンター内  
TEL・0472(47)6611
- 関東支店 〒370・高崎市歌川町8番地/高崎センター内  
TEL・0273(27)3366
- 大阪支店 〒564・吹田市新芦屋下1-16  
TEL・06(877)5151
- 心斎橋店 〒542・大阪市南区心斎橋筋2-39  
TEL・06(211)8331
- 神戸支店 〒651・神戸市葺合区浜辺通り6丁目1の36  
TEL・078(232)1111
- 四国支店 〒760・高松市西宝町2丁目6-44  
TEL・0878(33)2233
- 名古屋支店 〒460・名古屋市中区錦1-18-28  
TEL・052(201)5141
- 北陸支店 〒921・金沢市泉本町7-7  
TEL・0762(43)6111
- 九州支店 〒812・福岡市博多区博多駅前2-11-4  
TEL・092(472)2151
- 福岡店 〒810・福岡市中央区天神1-11/福岡ビル内  
TEL・092(721)7621
- 小倉店 〒802・北九州市小倉区魚町1-1-1  
TEL・093(531)4331
- 北海道支店 〒064・札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター  
TEL・011(512)6111
- 仙台支店 〒983・仙台市原町南目薬師堂北2-1  
TEL・0222(95)6111
- 広島支店 〒730・広島市紙屋町1-1-18  
TEL・0822(48)4511
- 浜松支店 〒430・浜松市鍛冶町122  
TEL・0534(54)4111
- 海外支店 ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ  
シンガポール・フィリピン